

[14] 西白杵郡小体連 (学校数12校 児童数796人)

○ 内容

I 年間事業

期 日	事 業 名	主 な 内 容	会 場
12月9日(金)	西白杵郡小体連 役員会	○ スポーツ振興費使途について ○ 研究集録について	感染対策として、役員のみで開催

II 事業部のあゆみ

※ 今年度、郡及び町における事業は実施なし。

平成31年度まで実施していた郡陸上教室も実施しない方向で進んでいる。

しかし、児童の体力向上を図るため、児童同士が競い合い、高め合う機会は価値が高い。新型コロナウイルスの感染拡大が縮小していない現状を考慮すると、今後は、一人一人の体力向上を図ることができるような事業を町単位もしくは学校単位で計画し、推し進めていく必要があると考える。

III 研究部のあゆみ

1 研究主題

主体的に運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方  
～山間部小規模校の実態に即した活動の創造と展開～

2 主題設定の理由

西白杵郡の学校は、12校中、へき地校7校、準へき地校4校であり、高千穂小学校以外は単式学級や複式学級である。それゆえ、各学校では、児童一人一人の実態が把握しやすく、学級の児童の実態に応じた体育科指導を行うことができる。また、学校全体の傾向もつかみやすく、体力向上プランにより重点的に課題改善が図れるとも言える。

一方で、1クラスが少人数の学校では、大人数で行う種目をするのに独自の工夫が必要であったり、運動に活発に取り組む児童とそうではない児童との二極化が明確になったりするなど、課題も見られる。これらのことから、運動に主体的に親しみ、取り組もうとする児童を育成するためには、山間部小規模校の特性に応じた活動の創造と展開が必要だと考え、本研究主題を設定した。

3 研究の目標

小規模校の実態に即した体育科学習や校内活動、授業展開や具体的指導の在り方について追究し、西白杵郡内の小学校と共有し、波及させることを通して、楽しみながら、主体的に運動に取り組もうとする児童を育てる。

#### 4 研究仮説

児童が楽しみながら運動に親しむ活動を設定すれば、目標をもったり互いに高めあったりしながら運動を行い、体力の向上につながるであろう。

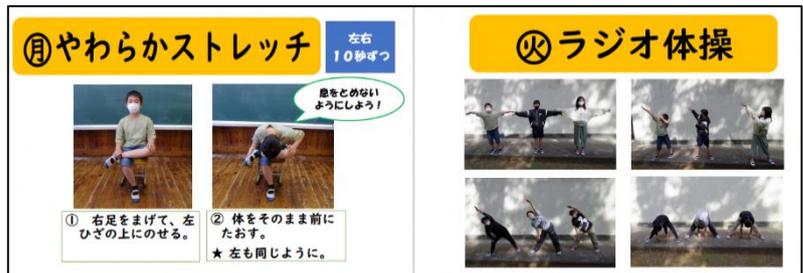
#### 5 研究の実際

##### (1) 業前・業間の活動の工夫

業前・業間の時間を活用し、年間計画に沿って運動に取り組んでいる。各学校の実態や体力テストの結果に応じた各種の運動に工夫して取り組むことで効率よく体力向上を図れるようにしている。

##### 【日替わりの運動】

体力テストで課題のあった運動に日替わりで取り組んだ。



##### 【運動を楽しむ時間】

気候的に運動機会の確保が難しい場合もあるため、年間を通して楽しんで取り組める運動遊びをした。



##### 【学期に応じた取組】

持久走やなわとびのほか、年度初めには立腰指導にも取り組んだ。



##### (2) 体育の授業での工夫

継続的に体力を高められるように、体育の授業のはじめにサーキットによる運動に取り組んだ。屋外でも屋内でもできるように工夫して取り組んだ。

##### 【遊具や場を工夫した運動】

備え付けの遊具や体育館等を活用して体力向上を図った。



【道具を活用した運動】



(ア) 握りたくなるハンドグリップの工夫



(イ) 5段階にレベルわけされたハンドグリップ



(ウ) それぞれのレベルに挑戦する児童



(エ) それぞれのレベルに挑戦する児童

(3) 日常的に取り組める運動の工夫

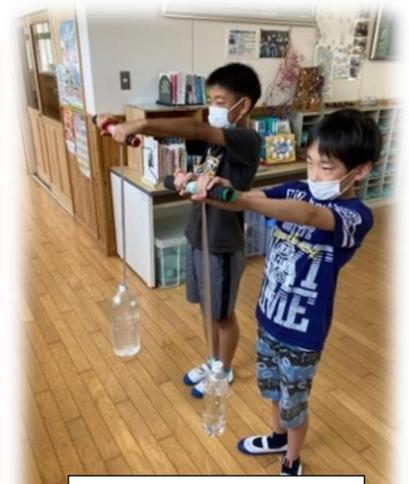
【運動コーナーの設置、レクリエーション等の企画・運営】

校舎内や運動場などに運動できる環境を整備し、日常的に運動に親しめるようにした。

運動コーナーについては、記録カードを用意し、自分の記録をつけられるようにした。また、体育委員会と連携して体力向上週間を設定し、全校で取り組めるように工夫した。



跳躍力アップコーナー



握力アップコーナー



全校外遊びの取組



全校レクリエーション

(4) 学校行事との関連

保護者や地域と連携して、児童の体力向上だけでなく、地域の伝統文化を継承していくために様々な取組を実施した。



すもう大会



持久走大会

## 成果と課題

西白杵地区は、小規模校が多い。しかし、小規模校だからこそ、体力テストの結果から得られた課題について、委員会活動等も交えながら、児童が楽しんで運動に親しめるような体育的活動を積極的に取り入れることができた。全校で体育的活動に取り組むことで、運動を通して学年間の交流ができ、学年を越えて学び合える機会となった。これらの取組を通して、上級生が下級生に運動の仕方を教えたり、運動が苦手な児童が日常的に運動を楽しんだりするなど、生涯にわたって運動に親しむ態度の育成につながっていると考えられる。

ただ、各校で体育的活動に取り組むことができているものの、児童自身が成果を実感したり、児童の運動習慣化につなげたりすることについて課題が見られた。また、新型コロナの影響により、各校の実践を共有し、共通実践することができなかった。今後、しっかりと各校の取組の結果を検証していくことも、大きな課題といえる。

## IV まとめ

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な体育的行事・取組が中止または制限された。そのような中でも、体力テストの課題や学校や児童の実態に応じて、体力向上や運動に親しむ児童の育成に各学校が工夫して取り組んでいる。研究の実際には述べられていないが、保護者と連携を図った取組や大学生を活用した取組もなされている。

新型コロナウイルス感染状況も徐々に落ち着き、今後は学校間の交流も増えてくるだろう。来年度は、今年度取り組むことができなかった各学校の実践の共有や児童の体力向上に向けた共通実践など、西白杵郡小体連として「西白杵郡内の小学校と共有し、共通実践する」ことを目標に、さらに研究を進めていきたい。